

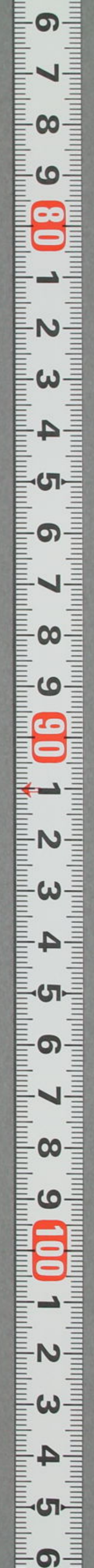


日本水滸記

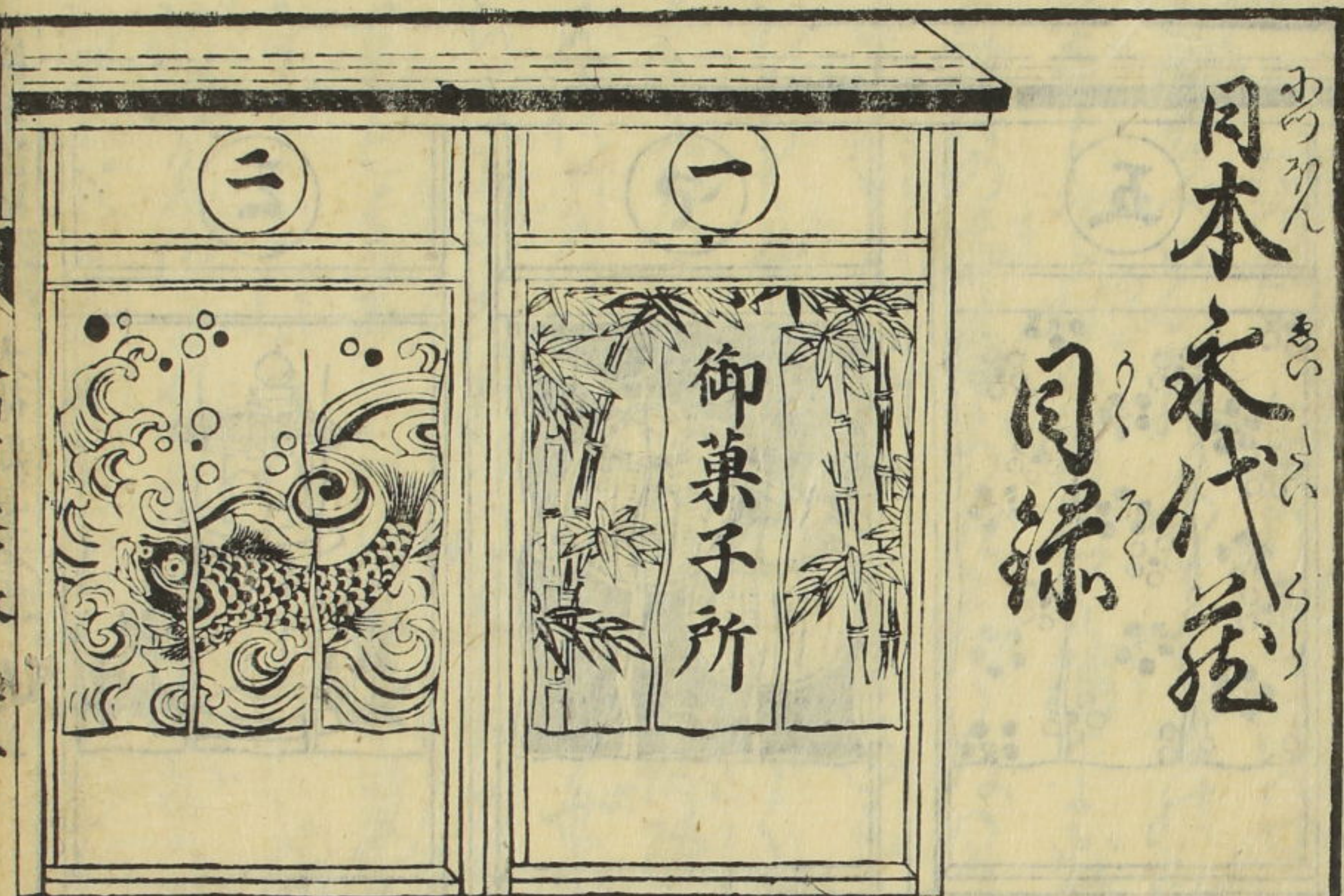
五

大福新長者教

~13
4349



13
4349



日本 永代花
目録

卷五

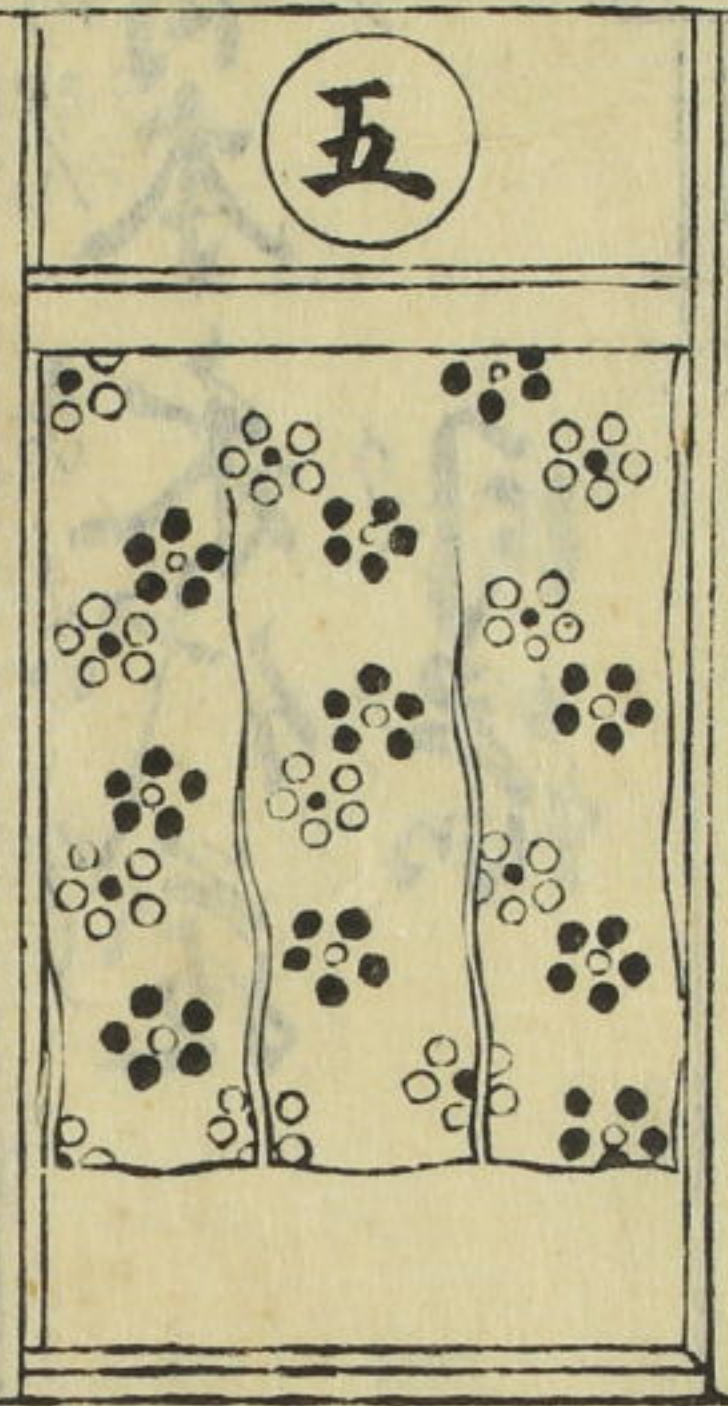
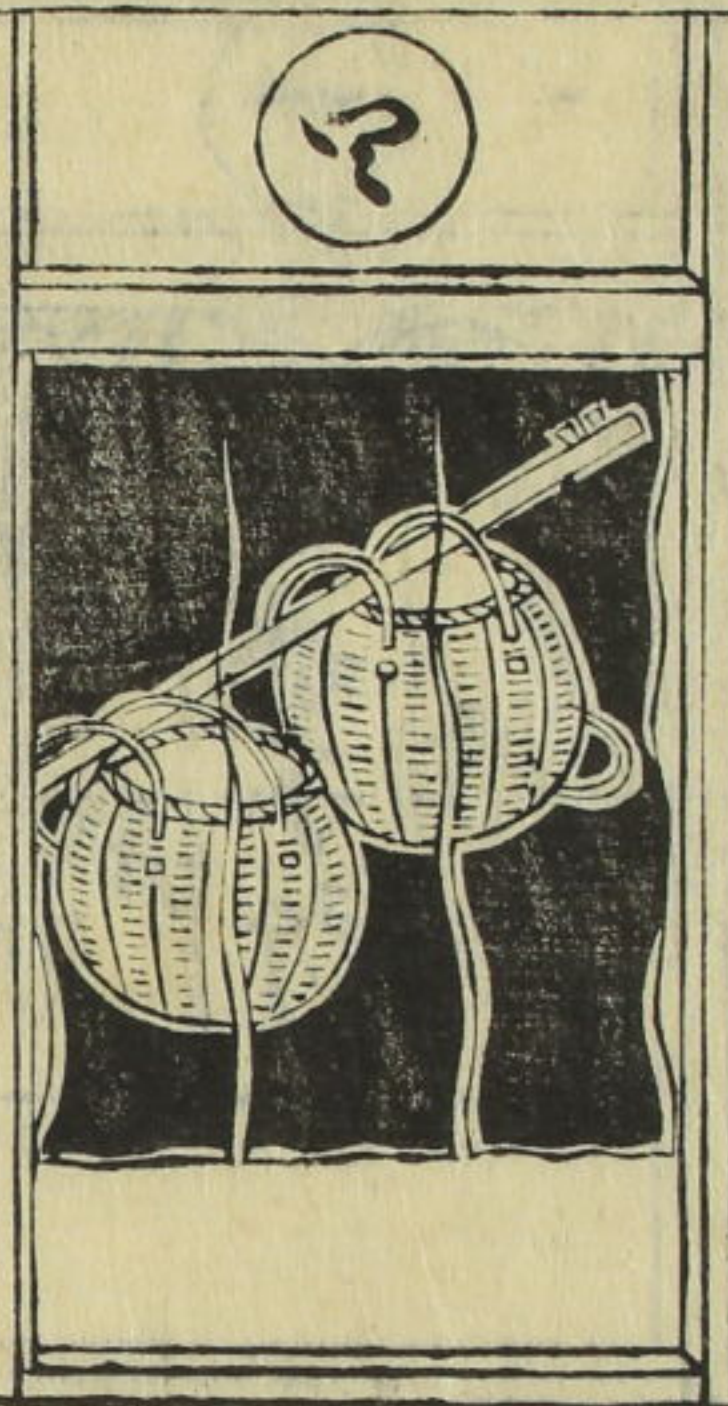
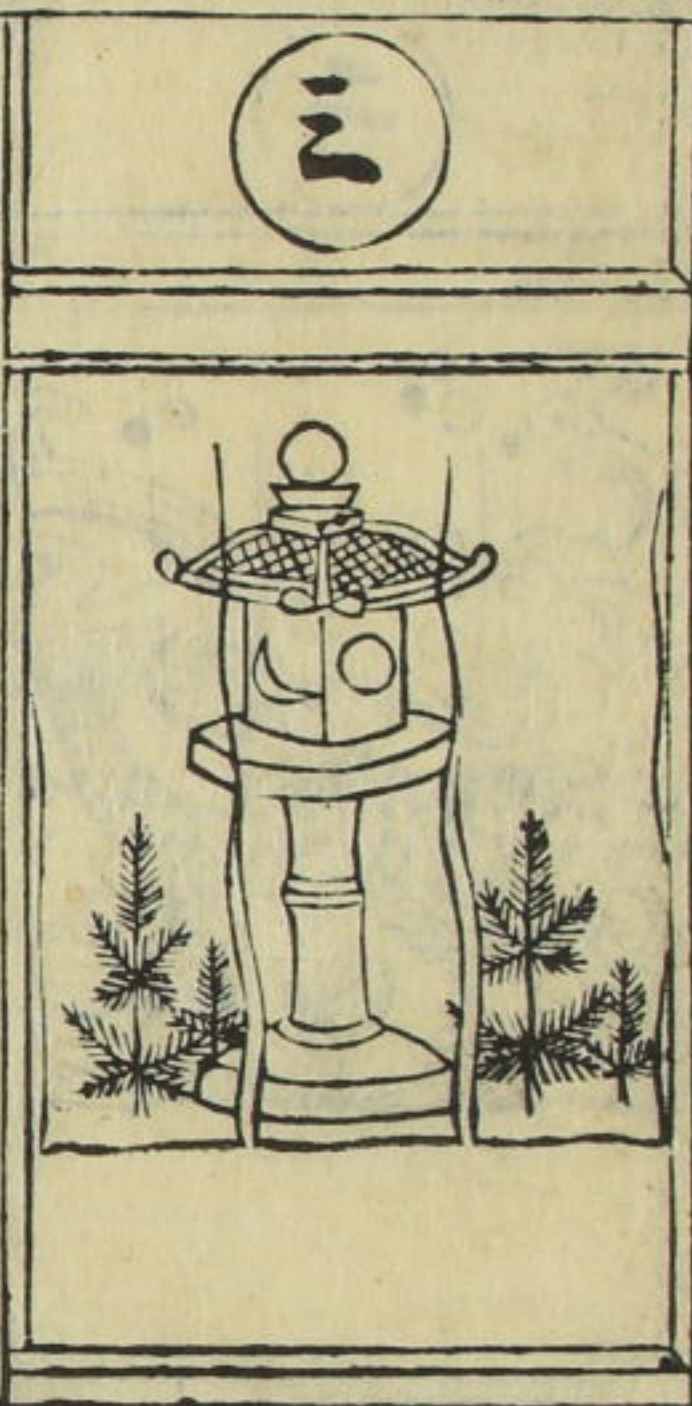


由りきりし時斗細之

世傳ふりし出乃小櫃
ありしは合と結や

世傳ふりし出乃小櫃

ありしは合と結や



大豆一粒乃老り堂
大和ふかれば木綿屋
備後乃書五つ

乃塩粒夕の油桶
常陸ふかれば金糸
人なれくの程お叶

三女下 嚙乃うま
作列ふかれば惚気煙
花命くひの九門の花持

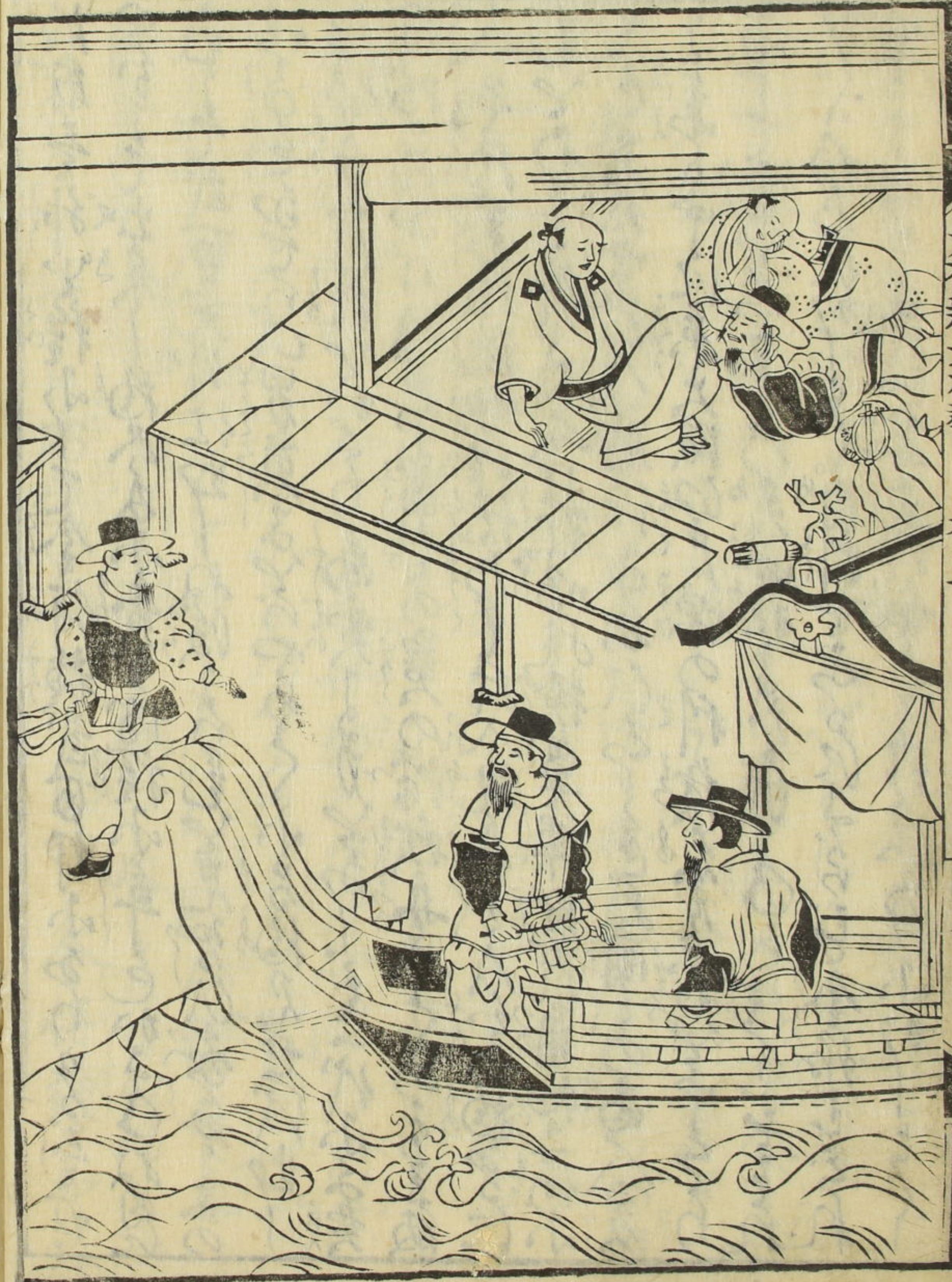
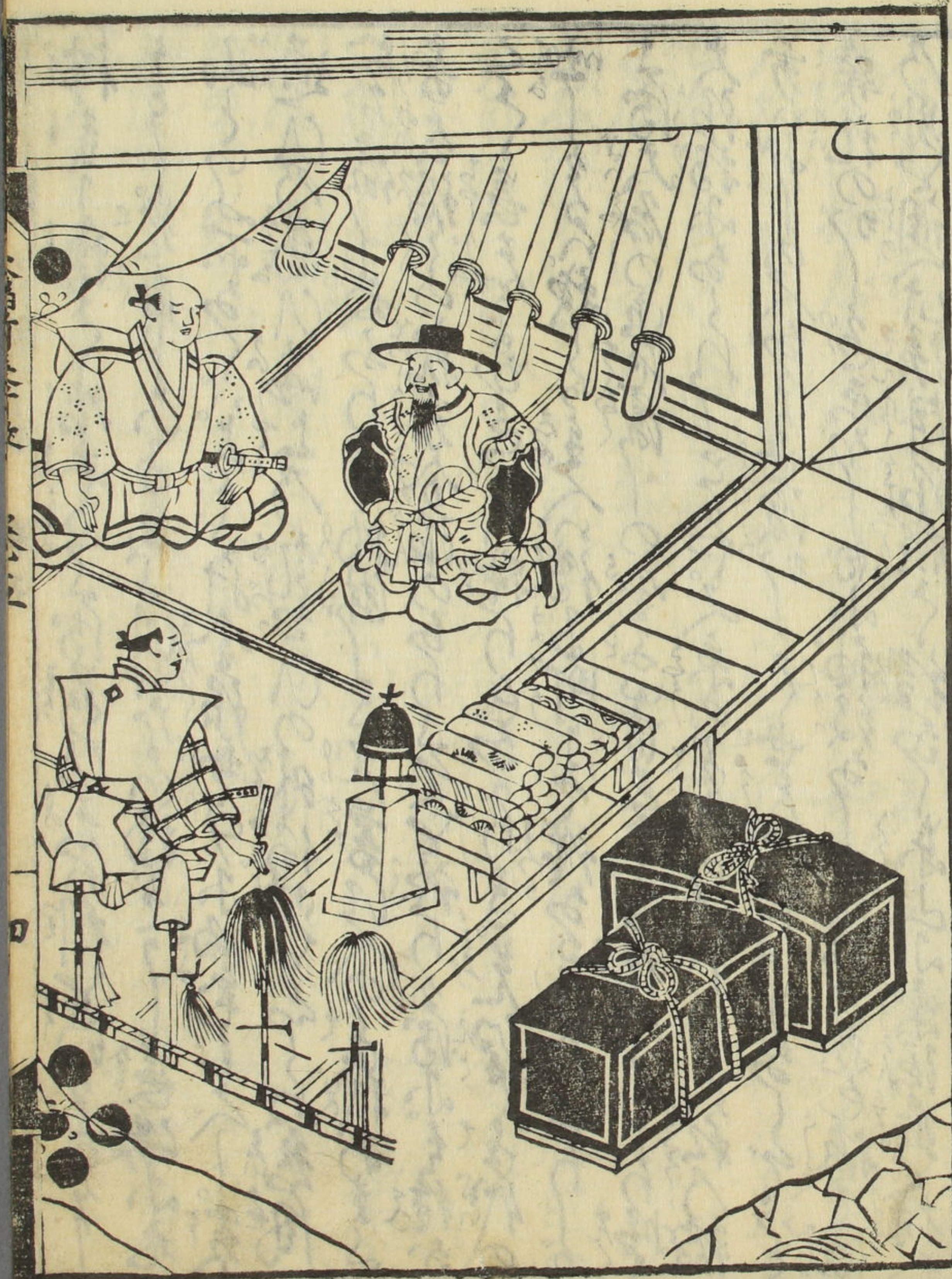
一

白りきりの時汁細

唐土人の手あて世に翻るる
常て秋の月見る浦へ出ま
三月の節句あはれぬ月
中しく和物よせばよき
かゝるを量取乃枕小ひ
まみ大くしては徳を
三代目に於ては今世
らひの世にあらぬ
毛色南無より
うくとれは
個へ
叶今の上

乃菓子食をばくしと極なり。小胡麻を極と極とてい
 じくあまのりやうとていふ。もともともく。智恵付
 長壽。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 小文。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 津米。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 極小。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 何程。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 院。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 夢。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 何程。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 大。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 幾日。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 何程。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極

於麻を非と極なり。全餅糖武百竹小あり。なる。三竹
 四。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 是。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 何程。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 同。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 系。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 是。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 一。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 少。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 一。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 一。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極
 一。終ある所人二年あまのりやうと極なり。極



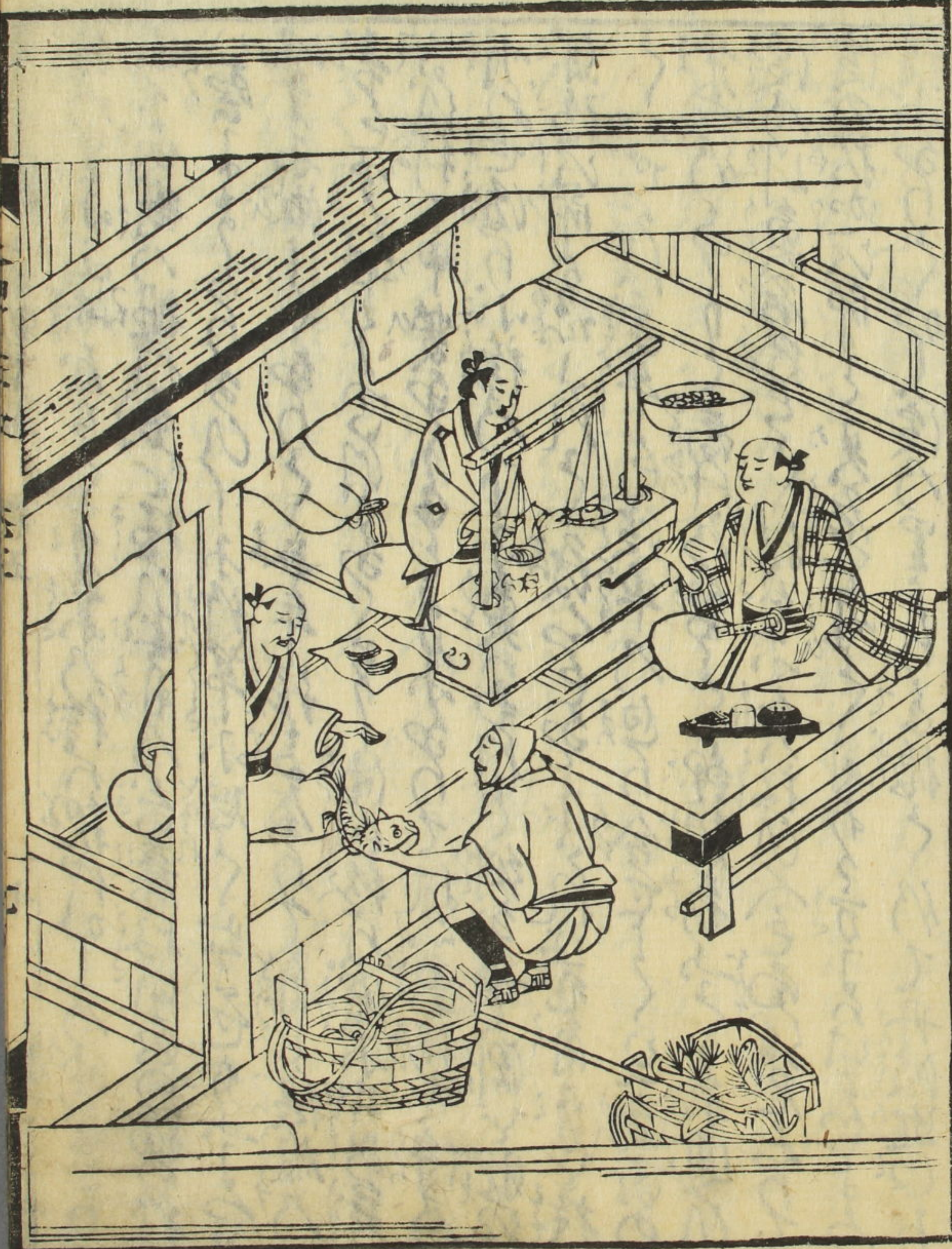
分二

世渡りよの渡船れもて記

人の船の早川の舟の車のごとく軟弱に流さるる七十八里より
 流りたるは年波のせうき世の舞臺も色もつら
 まり大節季の園の秋の味乃月秋より忘るる事也
 人皆さうありても舞臺のなほ高き氣味
 御も色減入のされく乃神とれいもげたぬと目較
 遠く遠くさうさう又黄柳色も平黄目れ
 物乃のそふんあてと黄目と信松のされ世の尾と
 見せと柳よりん地と海と世渡りも人のやせん也
 高ひ切たあふりつり掛治のたか集るるのたも
 いのそもまれ掛あて海と並ひの外乃際入あひひ
 ぬまもくくひく長とれいひねあて掛の雲帯成
 就するもあふれ入相持種代名にの玉と籠と云々流記

赤藤の秋櫻くゆりく度殿乃中程小勝掛くたひ
 こぬと紫舌とて因家英歌とて世一仕舞のあはぬ
 ありてさ掛乃柳維子小貝の付く當年のお仕舞
 い庭に三石塚末とかんまへりりもやれ併にた
 端乃蓋とと新敷ありおゆふり正月小袖装乃花席子
 小の裏もてとまみれれくの巻れとく袖の袖もて
 松系紙くつづり乃山茶一系敷子ひの今小相色世に
 伴あり去年れも舞臺乃給あせめと本綿入ととあふ
 ぬとれおとあふりつり長とれいひねあて掛の雲帯成
 ありは仕舞の戸のあふりつりとあふりつりとあふりつり
 事どらりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
 とあふりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
 飯とらあふりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

幾交り年乃世越と云ふ所人のとりせれわひしそ買掛
 と所よりおに合おはくありとて新米を石六拾目
 お場へ買と六十八文ありてとるに下米とて一ねほを
 外式を乃おかく式を下小位掛られは外味も新米
 とかくるにせしむれ年中入るを云とて揚子速来と
 してはとりぬおひ方のとてしる相りぬ所一入りの
 時通物ありとておお給ふりし海りもまた大年乃
 お入と海とて一入とて通座とておの由とておと
 空倉庫の仕はけおれかる目とておとておとておと
 とて多に推おとてしるしとておとておとておと
 とて高とておとておとておとておとておとて
 年ぬれとておとておとておとておとておとて
 おとておとておとておとておとておとておとて



後乃里小山崎屋をくわき業乃種ハ親代のくわ油屋あり
 なる家儀乃担行方と屋の金角乃赤藤屋に家の儀の種
 小松よまよりりまのくわ小作第小松くわ出させあり
 小松小淋くわありくわ毎年銘を屋りて自く担進乃
 赤色空のやうくわありくわ油屋屋の儀小角の儀
 小松行乃甲斐屋くわありて其の業何れ侍乃
 明の世後乃小橋乃下小松のわれど細のて測と腰
 孫治乃節乃後乃れくわ後乃れくわ角乃と担
 くわかせがばは年平と後車乃回り合せくわ二交家の
 業乃行乃ゆりくわ高乃れくわ種くわ種種ありくわ系通の
 後乃川真乃種くわ種文小松松のくわ西乃れありて
 後乃扱か江印と具者くわ種くわ用わろ方乃れくわ
 種ありくわ後乃里より種くわ種くわ丹波近にあり

初小もくわ種種種くわ一目小かよりありくわ業乃種
 風味者ありくわひありて目下種種と外乃志のくわあり
 高乃の只志小せがたのくわくわ後くわくわ他り
 くわ産乃小入を三トくわくわ自由個へくれの系乃産
 不乃ゆせらかくわ種人振種小色是くわ時とめは業
 小松種乃種ありくわ種ありくわ金種ありてあ
 種れんせは出くわわまこの種代と抱け家無昌計ハ
 若れ種業乃るのいひ出せくわくわ種同格色自く種あり
 くわくわ新を前乃のくわ種くわ油屋種乃後種とくわ
 深乃種村種乃種種ありてくわ種小妻まかくわ種長
 くわ同乃種種くわくわ種くわくわ種くわ種くわ種くわ
 くわありくわくわ種乃種同ありくわ種種乃種種種
 小松具是の業乃よまくわの種乃後乃種くわくわ種

元々この小世よりりの外に一年の壽程世との極
とく極しと抱いたしそれと油の志と十二月申迄に
しりの寿程いとそし何とあはまきと入行念乃ちま
年より極し用言とあはまきと高れ家小十二月多
良法はかま入言を花巻結の今乃ちあへし大なる年
と越とくしとまよありてはれとけしとま代の免とあ
らやしとまよ小志が布子小ま染乃清又体とくま
程せりしと内代家世あれはとく面白くむと家の中
と移る乃年の壽程とまよの奇案と多あはる家と
風信あれたがくそあはる人稀あて越しき後世乃人較
あり程やぐも代自高にが乃未ん世中て後大書目の
え程大豆程よとたるとや小方と小書程とまよ
小小からあはる世帯とこれの壽帯乃たるとや極月と古

自然と小乃海目あるにふと時目とれ抱あはるといと
き行と下下積小極一極もと織南とく正月仕程の百
品中とあはる又あはるしは古洪美と入鏡慶乃金相細
細は向れ禁中態ふま中れとれ又漁ひとれ九条めて
かす幾百二年に忠候付持とけは又人乃中たとく借
環乃分の始かす漁とる入あわらむと幾又百天かす環
ゆりとい九年男と書やのしとけはれ婚今といは程と
正月とやと云と来乃あ時が正月とや白船程れおとら
く門より掛色をむとと立ゆり又五五と入のこのと
たはかうととた肩と袖しとあはるかす米の程といく乃
内使からと世れおひあはる極とむと云ふつとひ首
ぬのくと今天といはるしとまよとてかす年とて
はるれまて今小枕わらりもせぬとまよとて首とらる

借はるものと大なるあけと啼くやわの海色はのりて
 借はるものと大なるあけと啼くやわの海色はのりて
 又さふらぬはつげの浪若の上とふれにさあけと袖下あつた
 乃わたりしちみふれと寸ちんてはび是のたれかた
 是福かおび十七八年とを中の人乃盡ふもそて家へ入り
 て正月とさふらぬゆめぞとてさへめかひのまゝ兼用
 ませうといひ指へふ下乃書物ふまなま下ねひとの
 書付してはせつたの意はたとてあて無くとまま一こや
 あらわふあされと指はるるてわらひもせよひはせよひ
 ぬく十人並あつた髪から常よりかんげふ者もあつた
 仕替はる官任勢はたはるるも張丸度け掛はあまこと打
 まうつとまはらばは居たりやとと板色ゆかりとさうらも

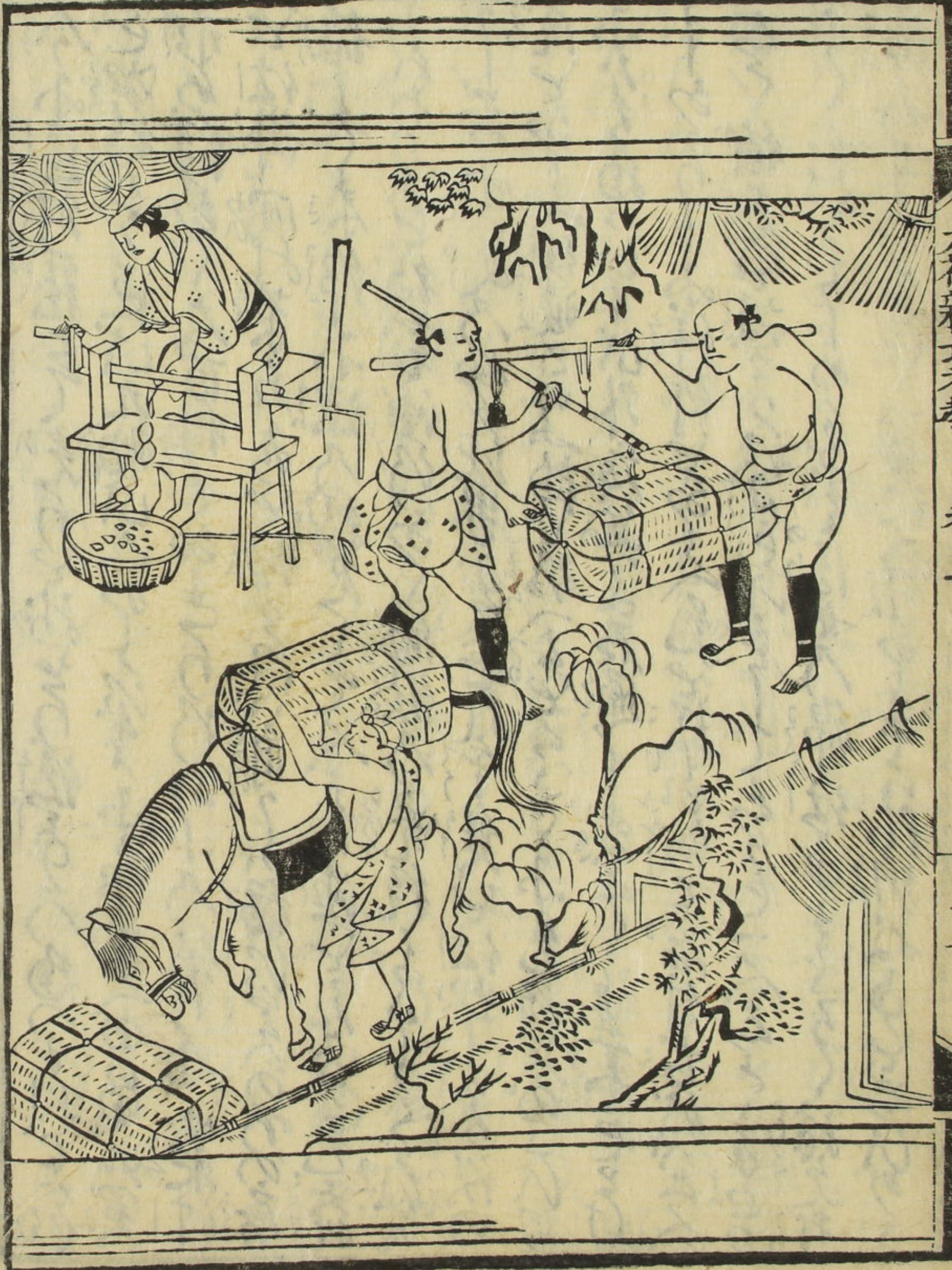
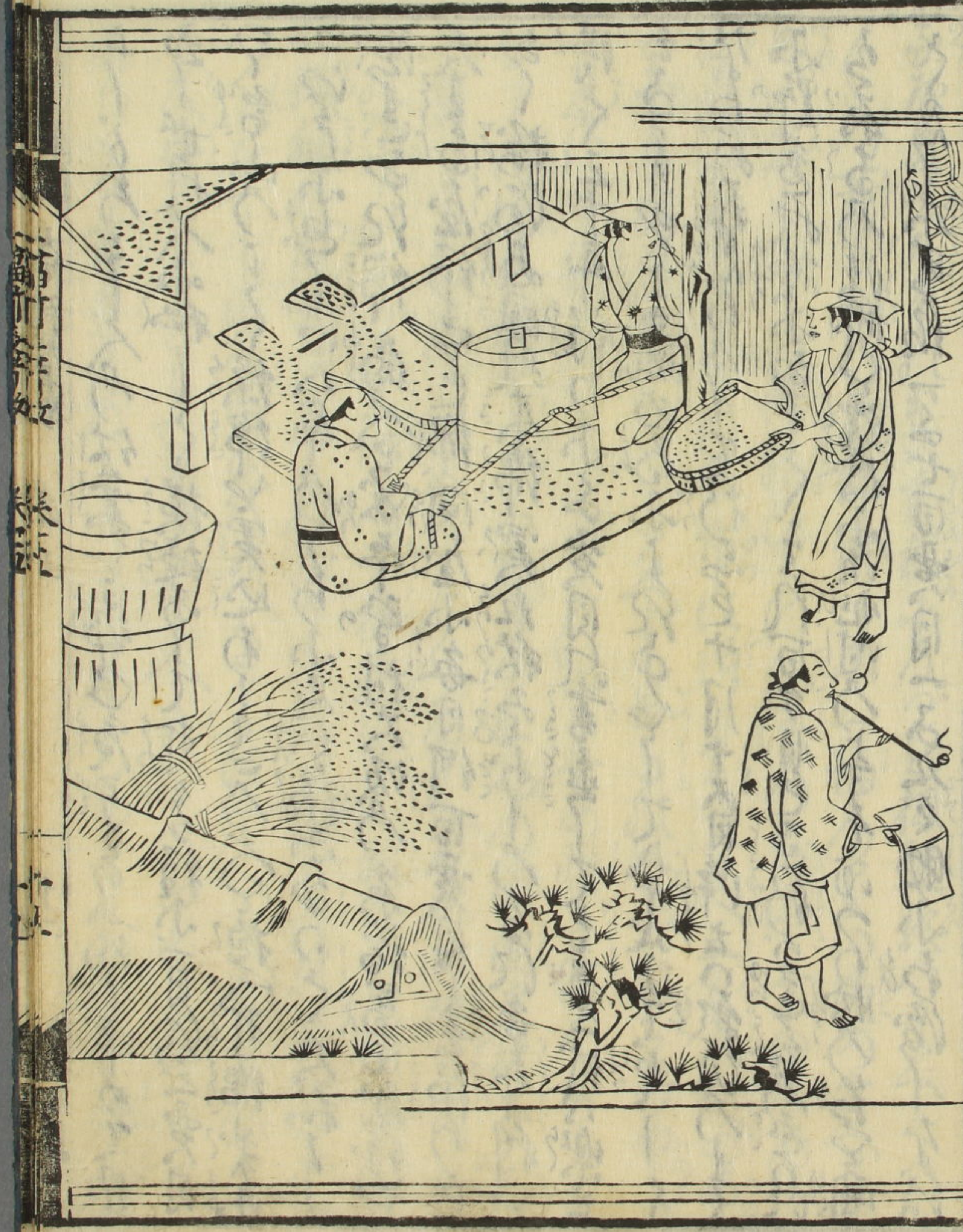
借はるものと大なるあけと啼くやわの海色はのりて
 借はるものと大なるあけと啼くやわの海色はのりて
 又さふらぬはつげの浪若の上とふれにさあけと袖下あつた
 乃わたりしちみふれと寸ちんてはび是のたれかた
 是福かおび十七八年とを中の人乃盡ふもそて家へ入り
 て正月とさふらぬゆめぞとてさへめかひのまゝ兼用
 ませうといひ指へふ下乃書物ふまなま下ねひとの
 書付してはせつたの意はたとてあて無くとまま一こや
 あらわふあされと指はるるてわらひもせよひはせよひ
 ぬく十人並あつた髪から常よりかんげふ者もあつた
 仕替はる官任勢はたはるるも張丸度け掛はあまこと打
 まうつとまはらばは居たりやとと板色ゆかりとさうらも

分三

大豆一粒乃光り堂

渡乃公刻とつゝ小畑らの女麻布と織延足引の大和
 棧と立東わりの物見れ里小川とつゝ九女と小百姓
 何りふが半之持とて角座ゆり乃浅まうく住み
 幾秋をそむ二汁乃山年真とつゝり六十好とつゝり
 して年越乃秋小入とつゝりいふた世に並小鯨乃首
 持とつゝりて同いんてぬ鬼小忍とつゝりん狂ひ乃豆うら
 くやとつゝり秋ゆくと是と播ひ集めを中乃一粒と野
 よぼてりり煮豆よ花乃咲ゆりやとつゝり小畑の傳ふ
 まじとつゝりてつゝりてを友あそくと播取りて秋の自
 かゝ実入とつゝり一合小あまると薄川小舟持毎年かり
 時分忘れどは事小かゝつゝり十年色とつゝり八十八石小あり
 ぬ是とつゝり大さある灯籠とゆくと初瀬海乃乃園とつゝり

今小豆灯籠とて光りておちり伝ふ乃つれ大
 巨如物とつゝり也い九脚いんかゝつゝり小島業(田島)伝
 おめ程あゝ大百姓とつゝりあつゝり乃ゆり抱小肥汁
 とは掛回茶碗あゝと播えれ自く福の美のりの房
 振とつゝり本綿小懐乃較かゝつゝり人より漁とつゝり是天性
 へあわつとつゝり物言油のあゝ細鉄乃亮程とつゝりつゝり
 一茶小之丈乃ゆり男とつゝり世れ業貴とつゝりは世々多
 血とあゝ人細獲とつゝり小畑と抱へとつゝり小是程人のいひ
 小なるゆり外庭箕とつゝり石通とつゝり麦とつゝり女業とつゝり
 一あゝり小洋竹とあゝ人是とつゝり後家何とつゝり名付た代三人
 とつゝり種先と扱多る力と入とつゝりてあゝ一人とつゝり
 しく是とつゝり下めとつゝり後女乃綿はるまゝとつゝり
 綿乃うやしく一日に又打あゝその粉別ぬあゝとつゝり



大福初長者巻五

らどるうへんは仕業と爲り夜更のあはれくめて作
 中世世人小松く横越りて打多程小一日六三費目
 つき山つとく繰綿と買込わさる人と抱入打綿美丸
 つい小也一買年乃うり小大分派小ありと大わり
 限もあに綿商人と年時村大坂乃糸指富田屋清わ
 夫もあに何とく綿向屋小毎日何百費目と云限り也
 外く指河西國丸本綿買丸秋をわり乃るに毎年利と
 得く二十年後り小小費目其書垂てそり一代の樂と
 なるもあく子孫の存小よれゆとて八十八とせきく
 かりぬ死老り乃てわさる十月十五日洋去の形ひ乃ま
 小野色丸標小ありとそれ百ヶ目とさ行のまを乃毎に
 らあさる乃法師と控指小北世河乃上とそゆつり快乃あも用
 とらん小も指一五七百費目一五九と助小お海一な代

あ屋後後乃るれあに書載小及つと扱親親乃るそそれ
 く乃和勢分乃書付懐一小三指乃里の快の方へは
 織乃算乃うの棉拾ひとひ紳染乃首巻糸の末乃後
 本枝をな右取乃下市に信乃中の方へ三星小紋の布
 小小りの肩衣とさるへ一巻とれ妹小花乃の布小
 小星乃中襟乃かりとて何半平の帷子添くとらと
 毎一同様小病中下小あさる立指乃箱園中指子の草
 足袋一足と毛の縫りめとくなく毎一鹿竹の極後筒筒
 箱丸中い二とち業師乃中林道伯とせりあり指染の友
 羽織袖丸扇吟とんとあ屋小継とあも同乃の仁たあ
 つととへ一あ久あま代二とるさるにそへとあさるひ
 十歳髪とて丁らとせさる又そへとつひあもつ秤とて丁
 徳りたる書通乃あうらりねりく何と色圓くとはり

大福新長者教 卷五 十一

おつかく 金指のついでに女書付あてておれく施
 果もあつた親類も後指の便りよあつたゆと今
 と酒で波もあつた家も見限り我里くおゆりぬ
 子七百貫目代指の代乃指末一を歸一を二つは
 一づれいごとくは山よやな書とあつた九助一は生指指肌小
 恙な指指のいひを乃指めよそあつたぬつ十二乃厄年小指
 乃下帯一帯とあつためし書とあつたわい色指とあつたど
 をまゝ小るな指親仁乃力のゆりごとくいおれゆり乃外
 あく教書指小胡椒乃目費の相二御執草換ひこの申志
 小麻乃角の指付長門練の書地乃指花是あつたての世る乃
 具いとい色指り一九之助是と後まゝ一といひとやまきと花
 と背に親指と代と色とそれく小指よとあつた色とと親
 といあつた乃とと一人背指ひ出入りひひ小指とと高貴

小指のり小あつた時多武考乃藤里二五堂と云ふ小系乃
 乃花子の隠家と云ふ乃人まゝのつこれ家小あつた
 つのりく急乃二乃とけあつた本过指の色指あつた
 かりく今乃初のと國りあつたと色引母まをせ小買つた
 やむりあつたと母親乃親指と干市乃里よりあつた指よ
 びひる一小分里乃美指と見あつた目あつた中り色は
 てとゆりぬるといひとあり母も色指小果り乃一は美えん
 云人あつてあつたと推し年久あつたあつた後乃とと
 色指りつとつと色指外小あつたつとあつたは是後乃中小
 たあつた男も三人あつた家継の氣もあつたあつたあつた
 九之助酒指乃あつた小力とあつた八九年乃つら小指とと
 あつたあつたつと二十乃年小指花指のく甲指あつた
 常世のさつとつと九之助色指乃指の是指ととととと

夫このめまうとよき代をわのりお年乃くこおれぬの
 たるいしめい金作のしん中入れりてくおまの
 お海へへとんをたれぬ因候を流しりてりて
 乃く是と感しえと申用くたし小清を換ふと
 多社乃理あれお船子七百費用つてひし
 書車具とえつてく系井筒を三節取小判式百
 支かりあはしぬて今より入る候あれ借
 融とてくさるれぬお理れり金なり是の
 商人乃後流るせにせ海とへく大波の
 乃極真の分のまぬりて書あてあつた
 海とへく外あり買かるる三干費用
 九と節取し小海ありお船を流るる
 教してお後とへく後の吊ひの流るる

申

物乃塩籠乃油桶

是やとあつた油籠あり海とへく麻湯大の
 乃力袋の物とてしよわぬと乃要る高
 いとれ油籠あり乃心おつて煮業乃
 申と云籠がつてあつてりて小
 乃油籠とあつて小と油籠とあつてり
 籠倉川とさつてりてせれを
 衆めりてそれいあ明るる油
 とくは振た乃あ世なり今
 中く油のたつて後世あり
 とれ一代乃うらのお船十
 乃何ぞとて棟をりて
 百町小ありお船と不足

無怒あつてけ人下乃真と村乃草束色あびりたる娘を
 俵あつて海邊背小僧とく又乃権細く船乃束束色あつて美
 女と云ふなりまうらあく只権も女も小力と云ふなり
 又娘はまうらあつて時と云ふなり船宿と云ふなり
 船と云ふなり又いづれは油乃桶小僧り船の寄成りりく
 かの小高ひあつて時より一都と後居とせど毎年同位
 まうらくなりとく又十余と云ふなり小僧三十七費定しある
 け男高貴小五付とけいし二強と扱と云ふなり例あつ
 年く小作深とあつたれをえと云ふなり乃のあつた
 金五百両小作中しくけいしと云ふなり漸百両小孫と
 それより流小東生とありぬ娘と男もいづれは人
 わりく何れもいづれありけいしと云ふなり程りりる人
 乃程りといふと云ふなり及び長治人なりと云ふなり一か



あつこりけと添られぬれ里おぼくひこころ新なる
 おい男のうと海く葉背乃唐と海とく投指と分
 くらに後いそ八人もあまく物かきまらんと案いんか
 せあれつひもきと毛物あて里乃月日かまぬい中
 森将橙さとい男とく一ひるまをそまかあれば
 とあれどわくやひいあまらる思愛おせあてつこい
 人乃またお書乃素漢とさくらら珠舞あり又本城
 新たあつとい男の中じとまと進めと野さるどお人
 大か乃金指とつらつせくらる文半因と云男の小細さ
 くれの邪本乃年控籠乃依り物仕出て時書油ひか
 く懐小入いず乃西り町小巻り一又六年小指子あま
 ひし時おつらつれやえ人あり又大浦島八といかまい小
 新小舞小気は移一後ら自か指子さて人の為

後乃ちおひねとといおなり又若指番たあくと云人の
 さ海とくれと大男好ましく服とさ後ドく使役ありて
 三百あつ物いんてら控まてい人新小細をぬい入佛乃あ
 かくくもとてつ巻と教さず足下乃物と踏どと云
 乃頭どらりい恐り又赤塚守たあつと云男いひ力小
 てと扶抱と海無を用乃逆多野乃指と野一報答
 武勇ま年中我まくとあつまひるそれく乃人か
 勢りあつと浮せあれとわく中人あつまひ若怒とて
 さととあつ小せ乃案人改め小背と云とさつらるる
 せよとるらるら小女は海とておりくれ書指乃指
 六の神田れ節通指小く平紀乃勅を漢はるの新たあ
 八十面新あつるはよけれと田町小草庫て目法さる
 と味線と報指とあつり細利乃本因さ乃神のあ

大福新長者歌 卷五

て淡紙巻てけ小る物賣今小海笠おろし音曲好の甚はら
 又九節がき居小入くやうく只世ぞ抱へられ物か
 中てむほ小つるれめとそれ小める来た能くやめ
 今た巻つらうとく来る小十奴字とくを是知又百の
 時小あひの又後生孫ぐひ乃数た其の川とつる海神
 とありおれが海も大佛乃あよりし我と心とせあ
 Pてとく、指れ乃乃好と急皆知行と九一志のた
 ぬ命おれいかつありとつりくる是とあふ小孫く家業と外
 小たして後巻あくぬめるるゆあられ是らと常くふ
 和乃力もあありぬあくとも人小とされく器用といつら
 そり乃然あり公家へお徳乃乃氏士のりる所人の事
 用と海に汁の毒のぬやう小ままめ小高座付付へ！
 と金乃も海人のあまこ乃まともんPとこいれら

中八

三まろト唄乃かま

飛年屠乃わふとゆしごありぬとわくを代乃海組のね
 生れ小もかまると付くおと金性乃娘と好むる世
 乃習ひとありぬさ海小依く今時乃仲人先お娘の
 穿髪金とく流しそと娘子の片幅でいぬとく好むる
 ひりこ各別欲い人乃孫ぐひを替れり剛潔小流く
 恋乃川上にく米乃更山さく世帯より年月流りよ
 長志とありお他小かられりおた慈念小立つた人
 ちりぬ大分限お座と云ふるる二代小のりくる浪乃
 山おは精うめと海れと英志乃耳小入る小船と松
 色奈とやめと棟と世も並に元目小也尊入の時仕立
 小麻袴あして四十年けくこれ養と勤める世の何
 深何流の時たかまるとと津美の七川星小紋小黒餅

若柳の花より外なる糸も散る事とてしどきとて
 さらりたる花合とつる歌の流乃枝九の持く富きおれ
 是又國乃かざりぞくし糸屋のひきりあるよあまの持り
 子小者大御とそあうぐ十三文乃村鼻紙小お扱入
 とんとく勅通切播列乃綱干小狭あうぐい許小をり
 魚形波をぬと云ふ浪とんあへと我子の持くまは妹
 ぐ子とん立二年又六とと色子代並小とてうせくるは
 始末とてまう糸履とて色指の糸め肌程れ用小里へさ
 とんとくあま小入是と子かあてと海へお意のあひ
 船もまると世ると船りぬ程格もつとに女房あふ家
 ぬ小よりこれこれし世の廣しあふまうあつるるそ程
 とと師へまぬの隠居とかまへおとと後さるるにげ強
 金銀とに任とりや丸出子掛志とや立旅子抱いと

ぐとるに枝埋糸束乃と格も仕却。若山立れ世
 梅り自とと交控ひやめと酒音と骨か寝より外
 初一年主因と出ひまうてと色代と灯の糸小座とト
 熱した帳面ととり小志の地舞並あしひ歌乃酒のり
 ねり梅枝種笑ひし赤肉製乃格もれとる清く心
 あとまの想とて親乃子あゆませたるあまの礼とれ
 ひかり海分敷敷仕けても大とて母親ひとりのり
 とぬけりてとくらへも身小るる程乃魚をひとる
 ぞくし烈志記のまもぐとあ温記の然なりげ新屋のまぬ
 お果られは梅枝勢糸ま志と下向小糸大坂乃抱
 山人乃志やまてる風俗とあしひ法と梅せの心とそれ
 小わりと格もひる袖とたあまのれと年まけ時と
 強記出作病とかまへと乃書生とりかしてと上かた



大相新長老卷五

のりり若女乃こ乃小とまりと日毎小荷多る種小門
 こひく慈小ほこらび計と慈小積くととへりて久敷
 け家小ほあり金銀小積まれ肉慈乃福小神おるま
 かりし時やしく愛慈と慈乃高賣大種小代てお
 智屋小かせ付廣く人乃金銀かざりりおく終りおあこ
 ぬここ手油りてとく二夜首乃お慈小元積くと元年
 乃家入乃肉徳の強弱大晦日乃枕打おる海お積拂也
 と肩一紙と紙の幅目より自由ありこ一積もあつは海
 徳付く兼用仕舞の七門乃種れ鳴時りあくらやんが
 一みあつてお慈小と賣叫込しは慈りこる賣あつは
 賣とく廣くろるれりる也那く門と和く共座屋こい
 ある人年盛持せよそお判小百ある年終てこ元却
 先程の利根の因こあおの豆板魚取と出るは慈あつてお代終る

